

車椅子クッションにおけるあり方 ～キャスパーシーティングアプローチとは～

大田病院 OT 澤田 香奈子



はじめに

- 日々の治療の中で座位を保つ事ができず、体を固めて車椅子に座っておられる患者様をみかける。その場合、リハビリテーションの治療として、まず筋緊張を整える為に筋や骨のアライメントを修正する。その後、正しい筋緊張を引き出し、効率的な動作の準備状態を構築する。
- この準備状態を構築する為にどれくらいの時間を要しているのだろうか？車椅子に乗る事で、その準備状態を作る事が出来ないだろうかと考え、東京民医連リハ部会の有志が集まり、クッションについて検討し、キャスパーシーティング理論に基づいた自転車のサドルをイメージした背もたれ付のクッションを作成した。

対象と方法 測定器 PalmQ

Portable Interface Pressure Sensor
PalmQ
携帯型接触圧力測定器



● [フィッティングシート\(PDF\)](#)
● [資料請求フォーム](#)

東京大学大学院工学系研究科健康科学・看護学専攻
老年看護学／創傷看護学分野共同研究



車いす座位の姿勢崩れや
得手体位の評価に



使用したクッション

院内使用のメディマット



レンタル品アウルサポートセット



キャスパーZAFU



秘密は吊り下げられた座布



キャスパーZAFU

こんな姿勢にな
っていませんか？

キャスパーZAFU

- * お尻がずれる
- * 骨盤部に空間
- * 頭が前に倒れる
- * 背中が丸くなる

お尻が
空かないから
腰が楽らく！

- * 空間ができ姿勢が
悪く腰が痛くなる

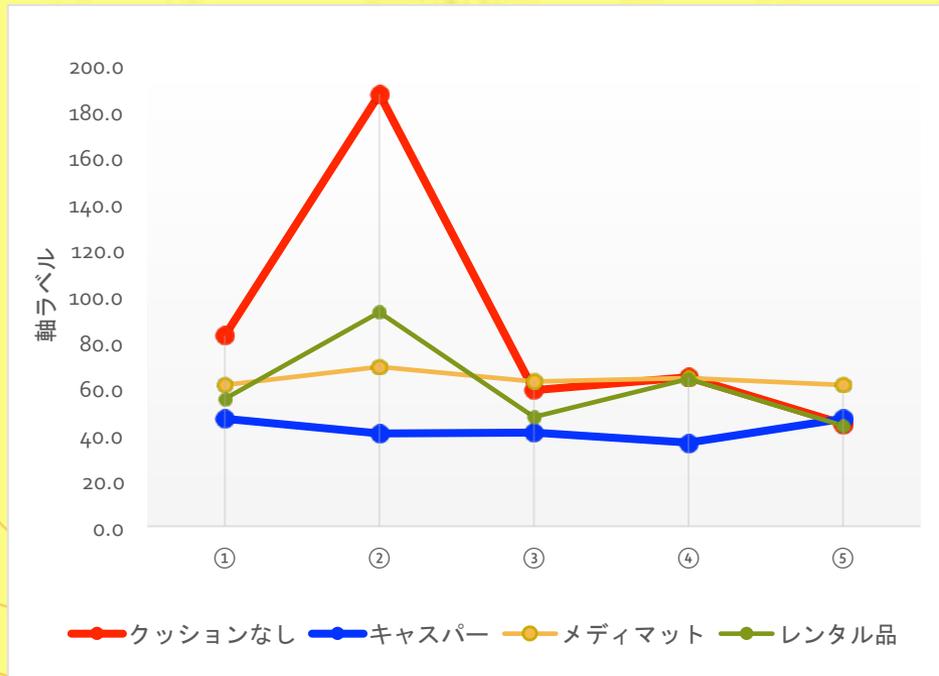
* 押し手からつり下げられた座
布により骨盤部がしっかりと支
えられ、空間が空かないので
坐骨にかかる圧力が分散する。



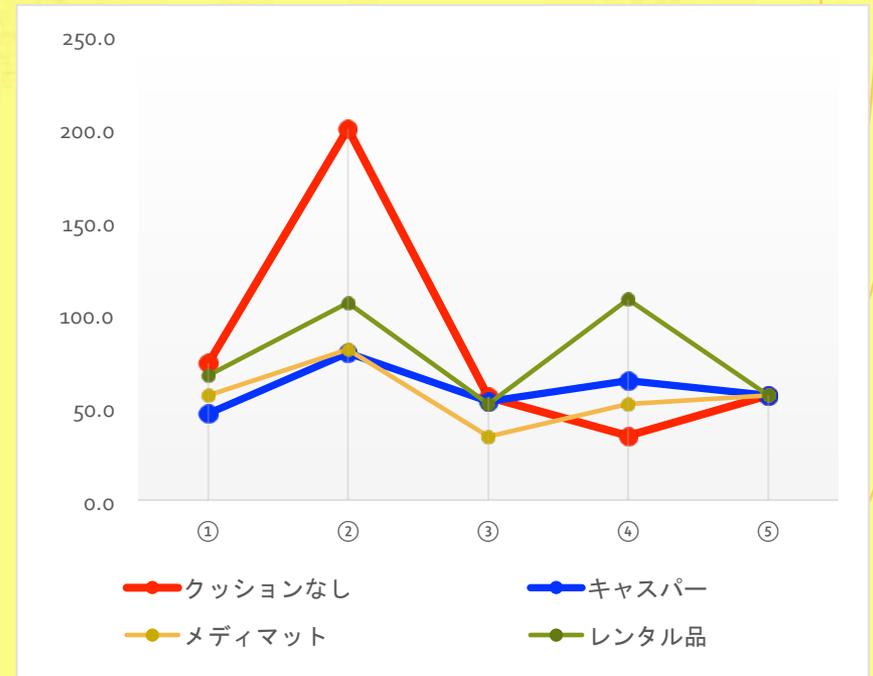


結果 折れ線グラフ

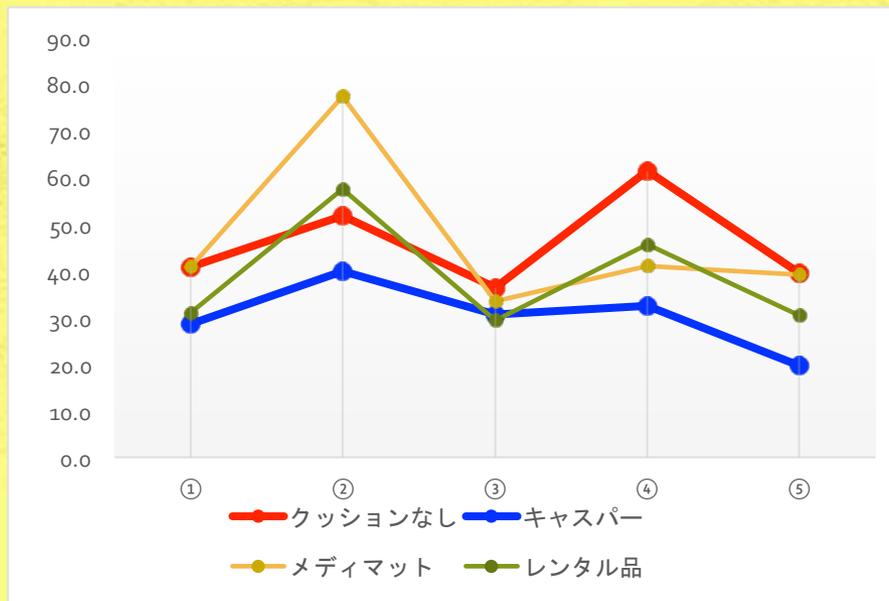
●ケース 1 左片麻痺



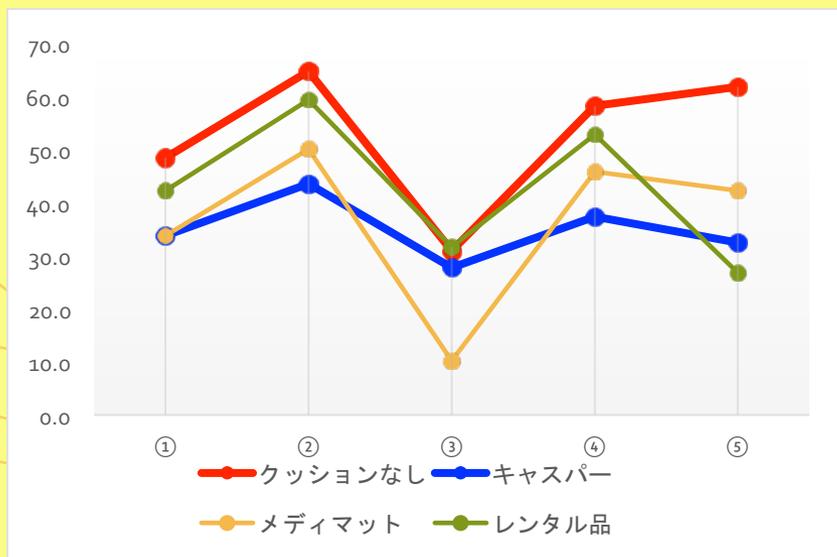
●ケース 2 左片麻痺



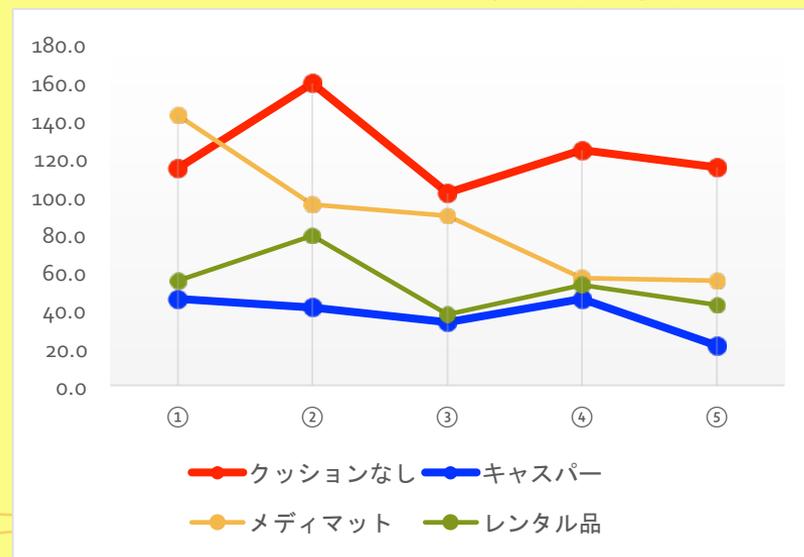
● ケース 3 両麻痺



● ケース 4 右片麻痺



● ケース 5 健常者



結果

- クッション無しは比較的坐圧が高い
- 院内で使用しているメディマットクッションは姿勢が崩れやすい方ほど、非麻痺側に力が入り過緊張が生じやすい。
- レンタル品のクッションは比較的坐圧が低く、背もたれとクッションの位置が決まっており、各個人にあった姿勢でクッションの位置を変化させる事が難しい。崩れた姿勢で座った場合一か所に強い圧がかかり易い事が分かった。

まとめ

- 今回6名の方にクッションを試したが、キャスパーシーティング理論に基づいたクッションが比較的良好な結果を得る事ができた。麻痺のある方の座位は前方に崩れやすく自己修正しにくいという事が伺えた。従って、キャスパー座布の様に骨盤に空間ができない物で、尚且つ活動において変化できるクッションが姿勢の崩れを起こし難い事が伺えた。
- 今後も症例数を増やし、研究を深めていきたいと考える。